

【内容・ほんの一部】

- 業務用以外の遊びの船はすべてヨットと呼びます。
- 海賊出没地域では、世界各国から来ているヨット仲間がラリーを組んで備えます。インド西岸ではバスコダガマラリー25隻、東地中海ヨットラリー70隻など。須藤さんはヨットレース以外は経験がなく、初めてラリーに参加したそうです。
- ラリー参加前にジャケットとネクタイを買っておくように言われたが、なるほど、大統領の祝賀会や、結婚式などドレスコードのある場所にも招待されたということです。
- アラビア半島南西では、日本人の寿司ざんまいの社長が船を4隻寄付してマグロの獲り方を教え、漁獲されたマグロを買い上げると約束。するとその後、海賊が減ったという事実があったそう。
- あるビーチで欲しがられたのはペットボトルだった。水筒にするために欲しいと。零細漁民も多く、貧富の差が大変大きいと感じた出来事。
- 入国・出国手続き、運河を通過するための手続き、許可をもらうのに1週間や2週間待たされるとは、短気では世界一周できませんね。
- ガラパゴスに行こうとしたとき、エンジンが故障し、思いがけず時間ができたのでマチュピチュに行くことに。
- ハーモニー号をマリーナにおいてバスツアーなど、いろいろな観光地も堪能されました！
- 冬の海は何もできないということで日本に一時帰国し、気候が良くなってから再スタート。その間に重要な船底の掃除も行われました。
- 死海では浮きながら新聞を読んだり、クレタ島やアテネ観光など楽しみも多かったようです。（あとは省略させていただきます）

【須藤さんが感じられたこと】

先ず、日本は素晴らしい国だと改めて思った。青い鳥のように。
海外の人は宗教を持っているが、日本人は宗教を信じていないということも強く感じた。
世界一周した人は多いが、9割の人は一周することが目的で、苦労しながらやっている。
欧米人がやっているようなラリーに参加してみて、彼らのヨット文化に接した。航海術も心得ている。

【今治在住の富田重雄さんからのメール】

名門聖光学園出身、伝統のある市大ヨット部OBの須藤さんの、ご本人語りのドキュメンタリーは感動的でした。時間に収まりきらない内容、体験談を次の機会に伺いたいと思っています。海賊との交流も、瀬戸内海にも村上海賊の歴史あり、興味を持ちました。
今朝の愛媛新聞に、世界のヨットマン、レジェンド堀江謙一さんが神戸から再出航準備中とのニュースあり、100歳現役を目ざすかと、驚いています。
サステイナブル・サバイバルのヨット航海はまさに、SDGsのおおいなるヒントがあるように思いました。